

令和3年度 後期 自己評価書（中学校）

篠山小中学校組合立篠山中学校

【評価基準】 A：目標を達成 B：8割以上達成 C：6割以上達成 D：6割未満

I 特色ある学校づくり について

評価項目	評価指標及び目標値	評価	学校による考察（◇） 改善方策（◆）	評価資料	個別評価	肯定率 4+3	アンケート結果（％）			
							4	3	2	1
小中一貫教育を目指した教育の推進	組合立学校や小中合同校舎の特色を生かした、小中一貫を目指した教育活動を推進している。	A	◇A評価と高く評価されている。今年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策をとった上で、参観日や生徒の様々な活動等を行ったことで、学校の様子を見ていただけたからであろう。しかし、「よくできている」と答えた地域アンケートの割合が、若干低くなっているのは、幾分、学校行事を縮小したためと思われる。 ◆後期は、稲刈り、篠南奉仕作業、運動会や文化祭・収穫祭など、地域と連携して行う活動が増えてくる。感染症対策を十分にとった上で、小中合同の活動の機会を増やしていきたい。	教職員1	A	100	83.3	16.7	0	0
	目標値：教職員、保護者、地域の90%以上が肯定	A	◇いずれの回答者からも高いA評価を受けた。特に地域の方からの評価が改善されている。後期は特に学校行事が多く、保護者や地域の方々が来校し、学校や子供たちの様子を見ていただく機会を多く持つことができたことが、この背景として大きい。また、今年度は国語科の授業で、中学校教員が小学校校舎に行き、書写の授業を教えている。小中合同校舎の特色を生かした取組であるが、そのような部分も高い評価へと押し上げているとも考えられる。 ◆中学校の教員が小学生に授業をする「乗り入れ授業」を増やしていくことができれば、小中一貫を目指した教育にもさらに厚みが出てくると思われるが、教員数や授業時数等の関係で容易でないのが実情である。年間を通して、チャンスを探り実践していけるように、小・中の教員共通理解のもと連携していきたい。	教職員1	A	100	80	20	0	0
ふるさと教育	地域の教育力を生かした「ふるさと学習」を推進し、郷土愛の育成に努めている。	A	◇生徒、保護者、地域、教職員、それぞれのアンケートでA評価を得た。保護者・地域共に「よくできている」と答えた割合が、若干低くなっているのは、新型コロナウイルス感染予防のため、地域の教育力を生かした学習や学校行事が減少したためであると思われる。 ◆2学期には、運動会や文化祭・収穫祭など、地域と連携して行う活動が増えてくる。また、総合的な学習の時間でも、防災学習やふるさと学習などで地域の教育力を生かす場面が多く取れると考える。これらを通して、感謝の気持ちや郷土愛の育成に努める。	教職員2	A	100	16.7	83.3	0	0
	目標値：教職員、生徒、保護者、地域の90%以上が肯定	A	◇いずれの回答者からも高いA評価を受けた。特に生徒は全員が4の評価である。2学期は、郷土料理や廃油石けん作りなど、地域の教育力を活用したプロジェクトを実施したことが、生徒の評価を高めた一因であると考えられる。 ◆これからも、篠南プロジェクトや地域学習などの様々な活動を通して、地域の教育力を活用した「ふるさと学習」を推進し、郷土愛の育成に努めていきたい。	生徒6	A	100	100	0	0	0
家庭・地域との連携	各種たよりやホームページ等を通して、学校の取組や生徒の様子を積極的に情報発信している。	A	◇今年度前期も、地域との交流が満足に持てなかったことから、できるだけ学校や生徒の様子を知っていただけるように、学校だよりや学級だより、ホームページ等をごまめに配信した。HPの接続者数を見ると、昨年と比べてもかなり増えており、地域の方々を含め多くの方が関心を持って見ていただいていることが分かる。 ◆各学級の学級だよりもごまめに発行しているのに、保護者からはあまり高く評価されていない。学年によって、発行回数にばらつきが要因にあるのかもしれない。発行数もさることながら、その内容も考えて、情報発信をしていきたい。	教職員3	A	100	100	0	0	0
	目標値：教職員、保護者、地域住民の90%以上が肯定	A	◇後期も学校ホームページ、学校だより、学級だよりを丁寧に発信した。それでも、前期と比較しても若干低くなった評価はあるにしても、高い評価を受けている。今後も、この小中合同校舎での子供たちの元気な活動を発信し続けていきたい。 ◆保護者や地域の方々にも楽しみに読んでもらえる、見てもらえる情報となるように、発信方法や内容について検討していきたい。	保護者14	A	100	40	60	0	0
学校運営協議会委員の意見	○ ふるさと教育で地域人材を生かすことは非常に良いが、圧倒的にマンパワーが不足する中で、今後継続させていくのは困難と思われる。しかし、地元を離れた人材を講師として招き、多様な社会に触れさせることで、将来的に地元を離れても、篠南の地に貢献・還元できる新しい発想を追究していくことも必要ではないか。 ○ 学校だよりやホームページの更新を常時行っており、子供たちの活躍がすぐ分かるのがうれしい。子供たちの日々の活動写真を毎日楽しみにしている。 ○ コロナ禍で稲刈りや運動会が実施できるかどうか不安である。	学校の対応	○ 生徒はふるさと篠南について、総合的な学習の時間を中心に地域内外の講師を招いて様々なことを学ぶように計画している。総合的な学習の時間の内容については、ふるさとの良さを再認識し、さらにふるさとに誇りを抱くことができるような教育計画の見直しに努める。将来的にも生徒たちが自ら、何かしらの形で地域に貢献できるようになってほしい。小中の9年間を見通して学べる本校の特色を生かしながら、学校運営協議会と連携・協働する中で、講師等地域人材の発掘と活用についても情報共有し、人材バンクづくりを行う。 ○ 極小規模の学校にもかかわらず、大変多くの方にホームページを見てもらっていることに驚く。週末の部活動の大会がある日も含め、今後もホームページをできるだけ毎日更新することを心掛け、本校の生徒の活躍を積極的に発信していきたい。	地域7	A	100	92	8	0	0
	○ すべての項目においてAという高い評価で良いと思う。 ○ コロナの影響で様々な行事を行いにくい中、運動会や文化祭など小規模校とは思えないような活発さを感じた。 ○ 大人になっても、どこに行っても、篠南の学校で良かったと言えるならいいと思う。 ○ 先生方の負担が掛からない範囲で「乗り入れ授業」を増やすことができれば、小中合同校舎、小中一貫教育の特色を生かせると思う。 ○ 合同校舎・合同職員室がすでに子供に良い影響を与えていると思う。学校からの発信に敬意を表すが、双方向性が欲を言えばほしい。		○ 地域住民の方々に総合的な学習の時間等で講師依頼をすると、いつも快く引き受けていただき、大変丁寧に教えてくださっている。学校行事を終えた後の生徒たちの感想の中にも必ず、支えていただいている地域の方々への感謝の言葉がある。今後も、子供たちの活動の様子等を、ホームページや学校だより等を使って積極的に地域へ発信し、学校の様子を知っていただきたいと思う。地域や保護者からの意見を“双方向で”、という御意見については、情報セキュリティの面から簡単ではないが、方法を前向きに検討していきたい。 ○ “乗り入れ授業”については、毎週、中学校教員が小学校の書写の授業を行っている。他の教科については、どの単元で実施できるかや、評価についての課題等があるが、中1ギャップに陥らないためにも、せめて6年生の乗り入れについて考えたい。	教職員3	A	100	100	0	0	0

2 確かな学力の定着と向上 について

基礎学力の定着	生徒は、「読み・書き・計算」の基礎的・基本的な知識や技能が身に付いている。 目標値：教職員、生徒、保護者の85%以上が肯定	A	◇生徒、保護者、教職員共に高い肯定率である。各教科での丁寧な取組に加え、今年度から導入された“一人一台端末”であるchromebookのドリル学習などを通して、基礎学力の定着を図ったためと思われる。 ◆これらの取組を継続していき、より効果的なものとなるよう、学習の振り返りをしっかりと行う。また、保護者の評価を3→4に上げるために、生徒一人一人の困り感に応じて、繰り返し粘り強く、基礎学習習慣や生活習慣の定着を目指して指導をしていく。	教職員4	A	100	16.7	83.3	0	0	
		生徒2	A	100	90	10	0	0			
		保護者3	A	100	50	50	0	0			
	授業改善	教師は、生徒が自分の考えを分かりやすく表現したり、物事を論理的に考えたりすることができるような授業を実践している。 目標値：教職員、生徒の85%以上が肯定	A	◇今年度から“一人一台端末”が導入され、ICT機器を活用した「効果的な言語活動」に重点を置き、各教科で授業改善に努めたことから、教職員の評価が高い。生徒も、コンピュータを使った授業は楽しいと評価をしている。 ◆コロナ禍の影響があるため、授業改善がしにくい状況があるが、今後もICT機器を活用し、中でもできる課題設定や表現の場の設定など工夫を図り、表現力・思考力・判断力を向上させていきたい。	教職員5	A	100	66.7	33.3	0	0
			生徒6	A	100	50	50	0	0		
家庭学習の定着	生徒は、家庭学習の習慣が身に付いている。(中学生は90分以上) 目標値：教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定	A	◇特に、生徒・保護者共に高い評価になった。各教科で積極的に宿題を出してはいるが、“一人一台端末”を使った課題やドリル学習を家庭で行うことで評価が高くなったと思われる。しかし、2の評価をしている教職員・保護者も若干いる。 ◆まだ家庭学習の習慣が身に付いていない生徒に対して、個別指導を粘り強く行うとともに、見通しを立てて自主的な学習ができる生徒の育成に努めていく。また、保護者との連携を強化していく。	教職員6	A	83.3	0	83.3	16.7	0	
		生徒13	A	100	20	80	0	0			
		保護者4	A	80	30	50	20	0			
	学校運営協議会委員の意見	○ 生徒自身は自分の学力に自信があるようで、それが大事だと思う。 ○ 基礎・基本を何度も繰り返すことが実践できている。 ○ 一人一台端末が導入され、いざという時は今後、家庭でも授業を受けられるようになることを期待している。 ○ 生徒自身は自分の学力に自信があるようで、それが大事だと思う。 ○ 家庭学習での評価が教職員・保護者がCで生徒はAであるが、仕方がないと思う。基礎が一番だとは思いますが。 ○ 家庭学習で、生徒は自分がしっかりとしているつもりでも、親は欲目で更に頑張してほしいと思っている違いだと思われる。 ○ 来年度は、平時からオンライン授業を受けられるような取り組みを期待している。	C	◇ 前期と比べて、教職員、保護者がC評価と下がった。しかし、生徒はA評価となっており、認識に違いが感じられる。家庭での過ごし方に対する支援が足りず、不安に思う保護者がいると考えられる。 ◆まだ家庭学習の習慣が身に付いていない生徒に対して、個別指導を粘り強く行うとともに、見通しを立てて自主的な学習ができる生徒の育成に努めていく。また、chromebookのドリルパークを効果的に使い、家庭学習に取り組みやすくさせる。	教職員6	C	60	0	60	40	0
			生徒13	A	100	30	70	0	0		
			保護者4	C	60	30	30	40	0		
	学校の対応	○ 今年度も「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、積極的な授業改善を行っている。一人一台端末の活用により、生徒の思考力や表現力を高めことに役立っている。今後、基礎・基本を身に付けさせる上でもさらに、効果的な活用を探っていく。端末を活用するためのソフトウェアも進歩している。各教科の学習課題の解決に向けて、生徒が抱えている頭の中のイメージを可視化できるようなものもある。それらを活用して解決できるよう、日々の自己研鑽を重ねていく。 ○ 「家庭学習の習慣化」では、生徒ほど保護者や教師は評価していないことから、個々のマスターウィークの記録や保護者の感想を分析し、両者の評価の乖離を改善していく。 ○ 家庭学習についてはそれぞれの教科ごとに、どんな方法で取り組みればよいか生徒には伝えており、宿題も過度な負担にならない分量にしている。その日に学校で習ったことを家で復習するためには、教科書やノートを持ち帰る必要があるが、教室のロッカーに置いて帰る生徒も少なくない。家庭学習をするための心構えや道具の持ち帰りについて、生徒と話をし根本的な部分から改善していきたい。また、保護者も家庭学習の習慣化が身に付いていないと感じていることから、できていない生徒の保護者と個別に連絡を取り合い、連携を図っていきたい。 ○ “オンラインの授業”については、いつ学校が休業になるかもしれないという危機感のもと、どの教員でも行えるように研修を行っている。今後はさらに、様々なソフトウェアを使いこなせるように学び続けていきたい。									

3 豊かな心と健やかな体を育てる教育の推進 について

道徳教育の充実	道徳科や特別活動等の授業を通して、自他を思いやる生徒が育っている。	A	◇生徒・保護者の評価が高い。道徳科や特別活動において、周りの生徒の考えに触れたり、自分自身を見つめたりする機会を通して、生徒自身が心の成長を感じている。しかし、教師の評価は「3」が多く、自身の取組が不十分だと感じている教員がいる。 ◆まず、道徳科や特別活動等における教員の授業力の向上を図るとともに、学校生活の様々な場面で、教師が生徒の言動に違和感を覚えたその時々、時機を逸せず粘り強く指導をしていくことが重要である。	教職員7	A	100	16.7	83.3	0	0
	目標値：教職員、生徒、保護者の85%以上が肯定	A	◇前期と変わらず、A評価であるものの、4の評価が若干下がっている。道徳科や特別活動等を通じて、自他を思いやる言動がとれる生徒はいるものの、慣れ親しんでいる間柄に甘え、不用意な言動で周りの生徒の思いに気付いていない生徒が若干いるのではないかと考えられる。 ◆引き続き、全教育活動を通して、心の教育に努めていく。	生徒6	A	100	100	0	0	0
挨拶・返事運動の推進	気持ちのよい挨拶・返事ができる生徒が育っている。	A	◇気持ちの良い挨拶や返事ができていると答えた生徒が大半であるが、保護者、地域、教職員の評価は若干厳しい。これは、挨拶をする側とされる側の受け取り方の違いではないかと推察できる。“できている”と生徒自身が感じているほどには、周囲は評価していないと考える。 ◆コロナ禍もあり、マスクで表情や声が届きづらい昨今ではあるが、昨年度に比べると挨拶も先にしてくれるようになったとか、しっかりとした声になったなどのプラスの反応をいただいている。今後も全教育活動の中で機会を捉えて、コミュニケーションの基本となる挨拶の大切さを指導していきたい。	教職員8	A	100	0	100	0	0
	目標値：教職員、生徒、保護者、地域住民の90%以上が肯定	A	◇前期と比べて、教職員の評価が大きく下がっている。子供たちは変わらず元気で意欲的に様々な活動に臨んでいるが、学校内における挨拶や返事で考えると、確かに弱かったと感じる。4月に校長が生徒に示した「さ・さ・な」の生活目標であるが、挨拶については、教職員が指導している場面が度々見られた。生徒もそれを感じて、若干評価を下げている。 ◆「さ・さ・な」の生活目標が示す通り、3学期からは、教職員や生徒の別なく、相手より先に爽やかな“挨拶”“返事”を率先していきたい。	生徒8	A	100	90	10	0	0
後始末運動の推進	生徒は、使用した物をきちんと片付ける習慣が身に付いている。	C	◇生徒からは肯定的な評価が多いのに対し、教職員と保護者の満足度は低めである。学校生活の中でうっかりと後片付けが不十分であったり、他の誰かを頼ったりするなど、受け身的な取組が見えたことが影響していると考えられる。 ◆「物の後始末」は次の行動の準備や、自身の思考を整理したり、振り返りになったりするため大切な行動である。生徒が主体的に行動できた際にはタイミングよく褒めること、また、家庭と連携しながら習慣化につながるよう粘り強く指導	教職員9	C	66.7	0	66.7	33.3	0
	目標値：教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定	A	◇全体として、前期のC評価からA評価へと大きく改善した。教室のロッカー内はいつも整然と整頓されるようになり、学校内では目に見えて生徒の意識が高まっているのを感じる。しかし、まだ、教職員が整理整頓を促す指導をほぼ毎日言い続けている状態であり、習慣が身に付いている状態には遠い。 ◆家庭でも指導を続けていただいているが、さらに習慣化を目指して、粘り強く指導していきたい。	生徒11	A	100	40	60	0	0
健康な生活習慣の確立	生徒は、早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付いている。	A	◇生徒・教職員は高い評価を出しているが、保護者の評価は低い。マスターウィークの調査では、100%の家庭で朝食が習慣化されている。早寝早起きは若干できにくくなっている。 ◆マスターウィーク調査を継続し、分析・考察した結果を生徒への指導にフィードバックさせたい。家庭への啓発として、分かりやすい「保健だより」を発信し、家庭との連携を図り、健康的な生活習慣の形成を目指していく。	教職員10	A	100	66.7	33.3	0	0
	目標値：教職員、生徒、保護者の85%以上が肯定	A	◇前期同様生徒・職員は高い評価をしているが、保護者の評価は低い。マスターウィーク結果では早起き・朝ごはんに関してはほぼ達成できている。 ◆マスターウィーク調査を今後も継続して実施し、保健だより等で家庭や生徒の健康な生活習慣の確立を図っていく。	生徒14	A	100	100	0	0	0
体力づくりの推進	体育の授業や部活動等により、生徒の体力・運動能力が向上している。	A	◇生徒は全員運動部活動（ソフトテニス部）に所属している。週5日程度、平日2時間、休日3時間程度の練習を行っている。練習や大会において体調を崩す生徒もおらず、体力、精神力も向上している。また、各種大会で好成績を残し、技術面の向上も見られた。 ◇1学期に行った新体力テストにおいてもほとんどの種目で、県・全国平均を上回っている。また、体力の向上を目指し、朝自主的に持久走に取り組む生徒もおり、自己の体力への関心も高まっている。 ◆今後も、さらに柔軟性、投力、持久力の向上を目指し、体育の授業や部活動等で取り組んでいきたい。	教職員11	B	83.3	33.3	50	16.7	0
	目標値：教職員、生徒、保護者の90%以上が肯定	A	◇生徒は全員運動部活動（ソフトテニス部）に所属している。1・2年生は週5日程度の練習を行い、3年生についても週1、2回練習に参加することができた。3年生引退後も1・2年生が南予大会や県大会の各大会で好成績を収め、体力・技術面と精神面を向上させることができた。 ◇保健体育の授業においては、すべての生徒が意欲的に運動に取り組むことができた。また、数人の生徒の課題となっている柔軟性についても、授業だけでなく家庭においてもストレッチ等に取り組むようになり、柔軟性が向上してきている。 ◆今後冬場においては、マラソン大会に向けて持久走に取り込み、さらなる体力の向上に努めていきたい。	生徒9	A	100	100	0	0	0
学校運営協議会委員の意見	○ 全国レベルのソフトテニス部の活躍は、生徒個々の努力はもちろんであるが、学校の先生方の熱心な指導・サポートがあってこそその結果だと思う。 ○ 体力づくりはソフトテニスだけでなく何かあればよい。 ○ 「後始末」で今回も低い評価が出ているが、自宅での保護者自身の子供さんへの関わり方が重要だと思う。	学校の対応	○ 「後始末」は、単に物を片付けることではなく、自己を振り返り反省し、次のステップに進む大切な行動につながる。表面的な行動だけでなく、内面的な成長につながることを呼び掛け、学校と家庭が連携して粘り強く指導に当たりたい。 ○ 本校の生徒は体の柔軟性が課題であり、ちょっとしたことで体を痛めたり、故障したりしやすい。体育の授業でも導入部分に柔軟体操を取り入れ対応しているが、家に帰ってからの個々の努力も促したい。また、体育の授業においても様々なスポーツに親しませる工夫をしていきたい。	教職員11	A	100	40	60	0	0
	○ 外から見ても挨拶もよくできており、マナーにしても問題ないが常時マスクを付けているため、挨拶が不十分に見えるのかもしれない。 ○ 後始末は大事だとは思いますが、自分たちが学生のころと変わらないな、と感じた。 ○ 後始末は本当に厳しく言っていないとなかなか定着しないと思う。 ○ 限られた生徒数の中、各大会で好成績を上げていることは大したものがある。この集中力を他の面でも発揮してほしい。		○ "気持ちのよい挨拶"が、今年の生徒は弱くなっているのではないかと保護者も教職員も評価している。「おはようございます」「さようなら」とただ声に出す挨拶に終始するのではなく、相手の目を見て、気持ちを込めた挨拶になるように、挨拶をする意味から改めて指導をしていきたい。 ○ 後始末についても粘り強く指導をしているつもりだが、いつまでも本校の課題として残っている。時間が掛かってもその場で片付けさせる指導や、保護者にも同じ気持ちで指導してもらうように、家庭との連携を強めていきたい。 「人は、心地よい成功体験すると習慣付きやすい」と言われるように、「後始末」も「挨拶」も生徒が心地のよさを感じられるように、指導の仕方にも工夫していきたい。	生徒9	A	100	60	40	0	0
				保護者11	A	100	80	20	0	0

4 健全育成の推進 について

規範意識の醸成	「決まり」や「マナー」を遵守し、自立心と規範意識のある児童生徒に育てている。	A	◇いずれの立場からも、全体としてA評価となっている。生徒の学校生活は大変落ち着いており、生徒間のトラブルや長期欠席に陥っている生徒も皆無である。生徒は善悪の判断がきちんとできており、自分を律しながら生活できていると言える。一方で“マナー”の点からは、その場の雰囲気や軽率な言動をとる場面があり、今後とも丁寧な指導が必要である。 ◆場にそぐわない言動があった際には、タイミングを逃さず、その場で指導することを大切にしたい。また、学校生活の様々な場面で、生徒自らが考えて適切に行動できるように指導をしていきたい。時間は掛かるが、生徒自身のレベルアップを図るために必要である。	教職員12	A	100	0	100	0	0
	目標値：教職員、生徒の90%以上が肯定	A	◇後期の学校生活も生徒は落ち着いており、毎月実施している「学校生活アンケート」でも“学校は楽しい”、“授業が分かりやすい”と肯定的な回答である。“自分のことが好きである”と自己肯定もできている。その結果として、いじめ問題をはじめとする生徒間トラブルや長期欠席も皆無である。中1～中3のそれぞれの学年の中学校生活に慣れ、いわゆる「調子に乗る」言動が現れるのが2学期である。その意味では、自分を律するとか責任を持って行動するという面で指導する場面はあった。 ◆穏やかな気持ちで学校生活を送ることができることは、生徒にとって大切である。「鉄は熱いうちに打て」の言葉にも	教職員12	A	100	0	100	0	0
個に応じた指導の充実	教師は、生徒一人一人の教育的なニーズに応じて生活や学習上の困難の克服を目指した指導・支援に努めている。	A	◇ほとんどの教職員が4の評価をしており、少人数の良さを生かして、日々個別の支援に取り組んでいると言える。 ◆本校の良さは、少人数であるがゆえに一人一人の生徒の状態を見守りやすいこと、また、丁寧に指導・支援ができる点である。今後も、別の指導・支援が成果につながるよう、各学級・各教科で振り返り、改善を図っていききたい。」	教職員13	A	100	83.3	16.7	0	0
	目標値：教職員の90%以上が肯定	A	◇ 前期と比べて、ほとんどの教職員が4の評価をしており、少人数の良さを生かして、日々個別の支援に取り組んでいると言える。 ◆ 個別の支援が成果につながるよう、学級、各教科で振り返り、今後も改善を図っていく。	教職員13	A	100	80	20	0	0
生徒指導の充実	教師は、生徒一人一人と教育相談などを通して悩みの把握に努め、いじめを絶対に許さない、見逃さない学校づくりに努めている。	A	◇「いじめはいつどんな状況でも起こる」ことを念頭に置き、迅速な対応を心掛けている。生徒間に学年の違いを超えて仲良く生活しようという雰囲気があることに加え、教職員が様々な視点から生徒理解に努めていることからも大きなトラブルにはつながっていない。 ◆今後も、毎月行っている「生活アンケート」や「あゆみ」を通じた日記指導、そして、生徒との日々のコミュニケーションの中から情報を集めていく。生徒にとって学校が安心できる居場所となり、教職員に気軽に悩みを相談できるような関係性・環境を作りたい。	教職員14	A	100	83.3	16.7	0	0
	目標値：教職員、生徒、保護者の90%以上が肯定	A	◇前期に続いて、生徒・保護者・教職員のいずれの評価もAの評価である。しかし、4➡3に一段階評価を下げた生徒が見て取れる。これを、“それでも肯定的な意見だ”と取るか、“評価を下げた”と取るかによって、今後の学校生活にマイナスの変化があるかもしれない。 ◆ここ数年、いじめ問題や不登校をはじめとする長期欠席がほとんどない落ち着いた篠山中学校になっているが、決して油断はできない。SNSなどを通じた他校や他地域の者との見えにくいトラブルが発生する恐れが多分にある。今後も、子供たちの表情に日々気を配り、些細な変化に気づき、タイミングを逃さない対応をするようにしたい。	教職員14	A	100	80	20	0	0
学校運営協議会委員の意見	○ SNSでのトラブルなど、表面に見えにくい問題があるかもしれない。インターネット活用がこれまでよりも身近になっているからこそ、ちょっとした子供の変化に気が付くように学校だけでなく、周囲の見守りも必要である。	学校の対応	○ 10名の全校生徒は、学校を欠席することなく元気に学校生活を送っている。毎月実施している学校生活アンケートでも、心配な様子を記述する生徒は皆無である。しかし、今やインターネットによって様々な人とつながることや、まして思春期の多感な時期であることを考えると、しっかりアンテナを張って情報収集や指導に努めたい。生徒との日々のコミュニケーションや日記指導、毎月実施している小中合同の教育相談などを利用して、きめ細かな指導や対応を行っていく。	生徒4	A	100	100	0	0	0
	○ Aの評価でよいと思う。 ○ 外から見ても、子供たちの礼儀やマナーもとてもよく、学校でのいじめの話も聞いたことがない。小さな学校だけに先生方の目もよくいき届き、生徒同士も互いに分かり合って仲がいいのだと思う。			○ 本校の生徒は本当に地域の方々にかわいがってもらっていると感じる。生徒もそれに応えるように、お互いのことを思いやりながら学校生活を送っている。少人数の生徒数ということは、それだけ密度の濃い人間関係の中で生活を送っているということでもあり、些細なトラブルが日常で起きていても不思議ではない。だからこそ、今後も、学校での生徒たちの表情や言動に目を配り、指導すべき事柄には時機を逸せず対応することや、保護者との連携を強めていきたい。	保護者10	A	100	50	50	0

5 安全・安心な教育環境の整備、教職員の資質・能力の向上 について

安心・安全な教育環境の整備と充実	学校は、災害等に対する安全教育の推進を行い、「自分の命は自分で守り切る」ことのできる児童生徒の育成に努めている。	A	◇1学期は地震対応の避難訓練、不審者対応の避難訓練を合わせて3回実施した。そのうち2回は事前予告なしでの訓練を行っているが、生徒の避難行動は迅速であった。また、今年度は年度当初に、生徒一人一人に非常持出袋を準備させた。中身についても、1年生の学級活動や国語の授業で取り上げて吟味させたりしたが、全体として高い評価につながったと考える。 ◆ここまでの避難訓練は、生徒が自教室にいる時間帯に行っていた。今後は特別教室での授業中、休み時間中等、様々な場面でも確実に避難ができるように鍛えていきたい。また、11月には、地域の方々と合同の避難訓練を計画している。避難から避難所での生活にも範囲を広げながら、自らの安全を確保できる生徒を育成していき。	教職員16	A	100	83.3	16.7	0	0
	目標値：教職員、生徒、保護者の90%以上が肯定	A	◇後期は、10月7日に起震車体験と防災学習を、11月5日に緊急地震速報訓練を、11月21日には地域の方々も参加しての篠南地域防災学習を、12月17日には県下一斉のシェイクアウトえひめ避難訓練を実施した。そして、1月には火災を想定した避難訓練を予定している。訓練を重ねるごとに、訓練に臨む生徒の表情が真剣になっていくのを感じた。これは、起震車での地震体験や町防災対策課に来校していただき、防災学習を行ったことが大変有効だった。 ◆学級には、生徒一人一人の非常持出袋を備えているが、2学期にその中身について生徒自身が検討し、不足の物品を新たに購入した。来る災害への意識が高まっているのを感じる。前期の改善点としても挙げていることだが、今後は、休み時間中の災害発生や負傷者が発生した場合を想定した、多様なパターンでの訓練にしていきたい。	教職員16	A	100	80	20	0	0
教職員としての資質と指導力の向上	信頼される教師を目指し学力向上、生徒指導等についての研修や自己研鑽に努めている。	A	◇4の評価が多く、常に試行錯誤をしながらの実践が高評価につながったと考える。特に、今年度は教科書が変わり、指導内容が大幅に変更になり、ICT機器を使った授業を展開するなど、教職員同士で研修の機会を多く持ったため、お互い分からないことを聞き合う雰囲気が出てきた。 ◆今後も引き続き、新学習指導要領に対応した指導の研究を行いながら、「へき地教育研究会」に向けた研修を、小学校と足並みをそろえて行っていきたい。	教職員17	A	100	83.3	16.7	0	0
	目標値：教職員の90%以上が肯定	A	◇4から3へ評価が一段階下がっている。2学期には、すべての授業でICT機器を活用している。教職員は試行錯誤を繰り返しながら、より効果的な方法はないかと、ICT機器の活用について研修を重ねている。“授業は分かりやすいですか”のアンケートに生徒全員が肯定的な回答をしていることからそれを図ることができる。評価が一段階下がっているのは、まだまだ現状には満足していないと考える、より高みを目指したいと、教職員が自身を厳しく評価しているためと思われる。 ◆今後も引き続き、新学習指導要領に対応した指導の研究を行いながら、「へき地教育研究会」に向けて、小学校と中学校との協働の中で、自己研鑽を重ねたい。	教職員17	A	100	60	40	0	0
学校運営協議会委員の意見	○ 南海トラフ地震等、いつ大災害が起きてもおかしくない中、学校だけでなく、家庭や地域でも意識を高める必要がある。 ○ 親子、地域ともに学ぶ活動があるとよい。	学校の対応	○ 実効性のある訓練を通して、特に「自助」の意識やスキルを高めたい。これまでの避難訓練は、授業中などの生徒が教室で過ごし、教師の判断の下で避難場所等を指示する形態で行っていた。2学期以降は休み時間など、生徒が自分自身で身を守る行動をとり、避難を判断する状況下でも行ってほしい。また、11月21日(日)に、保護者・地域住民と一緒に防災学習会を開催し、地域とともに防災意識を高めたい。学校運営協議会委員を中心に工夫改善し、是非、今後も継続した活動にしてほしい。							
	○ 先生方の資質も言う所がなく、見習わなければならないと思う。 ○ へき地教育＝自然環境、少人数を生かした成果を期待したい。 ○ 11月実施の防災学習会は、防災意識の高揚を図る意味で大変有効であり、今後は折を見て、学校・保護者・より多くの地域住民が参加しての防災訓練も必要かと思われる。 ○ 防災学習会を続けることで、地域にも防災意識を高めることができると思う。		○ 新型コロナウイルス感染症予防対策として、内容や時間を制約しての実施であったが、11月の防災学習会には、多くの保護者や家族、地域の方に参加していただいた。今後は、地域の防災意識を高める上でも、地域住民との避難訓練や体育館を避難所にしたシミュレーションを、地域主体で行うことが大事だと思う。学校でも、学校運営協議会での熟議を重ねながら、さらに実効性を高める防災学習会を継続してほしい。							